

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立宇和島東高等学校(全日制)

学校番号(42)

| | | | |
|-------------|-------------------------------------------------------------|-------------|-------------------|
| 教育方針 | 人格の完成を目指して、敬愛・自律・進取の精神を培い、21世紀をたくましく生きぬく心身ともに健康な生徒の育成に努めます。 | 重点目標 | 自らを信じ 自らを鍛え 夢の実現を |
|-------------|-------------------------------------------------------------|-------------|-------------------|

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善策 |
|------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自 己 実 現 | わかる授業の実践 | 主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善に努め、実施した授業を評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立によって、授業の質的向上を図り、生徒の授業満足度100%を目指す。 | B | 授業アンケート結果について、1学期末と2学期末を比較すると、すべての項目で数値の上昇がした。このことは、学期の進行により生徒の学習意欲が向上するとともに、教員の授業の工夫・改善等が進んでいるものと評価できる。しかし一方で、昨年2学期末との同期比較では、ほとんどの項目で前年の数値を下回っている。特に1年生にその傾向が強くており、今後注視していく必要がある。今年度の生徒の授業満足度は83%（前年度も83%）だと考えられる。 ※授業満足度は以下の方法で算出している。 授業アンケート全体の平均3.32点÷満点4.0＝83.0% | 授業改善推進事業の研究指定校として、授業改善に取り組んでいるところではあるが、授業アンケートの結果からは、その効果が顕著に現れているとは言い難い。生徒の授業満足度は比較的高い状態が続いているものの、生徒が満足度の向上を実感できるよう引き続き主体的・対話的で深い学びの視点から指導方法の工夫・改善を図り、生徒が確かな学力を定着できるよう努めたい。 |
| | | 研修・研究授業に5回以上参加することを通して自己研修の充実を図る。校内授業相互観察等によって、「主体的な学び」の実践に向けた取組を推進する。研究授業の計画的な実施及び授業研究会の協議内容を生かし、授業力の向上に努める。 | B | 1月末までに研修・研究授業に8.3回の参加があった。昨年度は8.1回であった。授業改善推進事業の公開授業などもあり、教員が意欲的に取り組んだ結果だと考えられる。また、学校評価アンケートの「教科会や校内研究授業で授業方法について検討するなど教科指導力の向上に努めているか」の項目でも、0.2の数値向上が見られた。 | 昨年度に引き続き、基礎研修を受講する教員も多く、校外研修に参加する機会に恵まれた。校内授業の相互観察もほぼ全教員が複数回行なった。ICT機器を活用できる環境整備も進んでおり、授業力向上に向けて、効果的な指導法を今後も継続して、研究していきたい。 |
| | 学習習慣の確立 | 教科間で連携し設定した適度な課題に取り組ませるなど、一日3時間以上の家庭学習習慣の確立を図り、継続的な学びの姿勢を育成する。 | C | 2学期の調査で、3年理・普科は4時間41分と目標を達成したが、商業科は1時間25分と達成できていない。3学期の調査で、1年理・普科は、2時間38分、商業科は1時間23分、2年理・普科は2時間22分、商業科は1時間33分と目標を達成できていない。 | 家庭学習時間は徐々にではあるが、減少傾向にある。学力の定着と向上には継続的な学習習慣の確立が不可欠である。質の高い授業によって学習意欲を喚起することに加え、担任による個別面談を充実させることで進路意識を醸成し、学習時間の増加につなげたい。また、進路探求を通して、自己実現に向けた主体的・自立的態度を養いたい。 |
| | 理数教育・産業教育の充実 | 科学的探究能力の育成を図るとともに、科学系コンテスト等において課題研究の受賞数20件以上、また、地域貢献の意識を高めるために、地域サイエンス事業のイベント等への参加数500名以上を目指す。 | C | 科学系コンテスト等への応募等は92件（R2.3.31までの予定件数含む）のうち、受賞は13件（R2.1.30現在）であり、特に令和元年度SSH生徒研究発表会ポスター賞の受賞は大きな成果である。課題研究を通して科学的探究能力の育成に一定の成果があった。また、地域サイエンス事業のイベント等への参加数は、概数で470人と目標人数500人に迫ることができた。新規イベントとして小学校出前教室を3回実施できたことが大きかった。 | 科学系コンテスト等への応募や受賞の件数を維持することに注力しながら、課題研究の質の向上を目指して、ルーブリック評価等を活用し、日頃の指導をより充実させる。また、地域サイエンス事業のイベント等を生徒自身が主体的に運営できるシステムを構築させる。 |
| | | キャリア教育全体計画に基づいたキャリア指導を実践し、資格取得を奨励して全商検定1級3種目以上合格者70%以上を達成する。 | C | インターンシップをはじめ、ビジネスマナー講習会の実施など、各学年において幅広く実践できた。全商検定1級3種目以上合格者は、45.2%であるが、本年度は全種目（9種目）1級合格者を1名出すことができた。 | 学習習慣が十分に身に付いていない生徒が増えてきたことに加え、全商協会主催の検定試験の難易度が上昇の傾向にあるため、平日補習等の指導を行いたい。 |

| 領域 | 評価項目 | 具体的目標 | 評価 | 目標の達成状況 | 次年度の改善方策 |
|-----------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自己実現 | 希望進路実現 | 望ましい職業観を育成するとともに、生徒の能力・適性・希望を把握した就職指導を実践し、早期に採用内定率100%(一次試験合格率90%以上)を達成する。 | A | 個別面談や保護者面談などを通じて、9月末までには学校斡旋による就職希望生徒の内定率は100%を達成することができた。公務員希望者も昨年より合格率が増加し、4名が最終合格した。1次試験の合格率は88%を達成した。 | 就職先の希望業種や職種、事業所など、具体的な希望先決定が遅いので、早い段階での決定ができるよう資料を工夫したい。 |
| | | 「思考力・判断力・表現力」を問う入試問題の研究を行い、教員の進学指導力の向上を図り、国公立大学及び難関私立大学合格者数110名以上を達成する。 | B | 今年度は商業科生徒の大学進学希望者が増え、その進路実現のために、過年度の受験実績を参考にしながら行った面接や小論文指導が奏功した。現在は普通科・理数科生徒の志望校検討に十分に時間をかけ、国公立大学の個別試験対策を行っている。 | 生徒の進路希望を尊重しながら、最適な受験先を提示するために、各学校の特徴や新しい入試傾向の「思考力・判断力・表現力」を問う問題の研究を行っていきたい。 |
| 心身健康で豊かな心 | 基本的生活習慣の定着 | 全体指導及び個別指導を通して、気持ちの良い挨拶・端正な身だしなみの実践100%を達成する。また、交通マナーやルールを遵守する生徒を育成し、交通事故0を達成する。 | C | 気持ちの良い挨拶や端正な身だしなみの実践は、アンケート結果によると、昨年同様、70~80%ができていると答えている。2学期末における身だしなみ指導不合格者は全体の5.6%であり、以前より減少傾向にある。交通事故は自転車と車の接触が2件、自転車と自転車の接触が1件と家族の車に同乗中に事故に巻き込まれたものが1件であった。 | 授業や集会などであいさつの意味や重要性、身だしなみを整える必要性をそれぞれの立場から話してもらうなど、意識を高める活動は折に触れてできたとと思う。今後も継続していきたい。交通事故はほとんどが自転車運転中なので、自転車の安全運転について講習会を開くなど、さらに指導を徹底していきたい。 |
| | | 生徒の健康・安全に留意し、長期欠席・不登校への早期対応に学校全体で取り組み、一か年皆勤率60%以上を達成する。防災教育を通して、防災意識の高揚を図る。 | B | 一か年の皆勤率は、1年生45.2%、2年生63.6%、3年生が49.8%だった。1年生の欠席者や保健室利用者が増えている。防災教育は、生徒にも意識の高揚がみられる。 | 長期欠席や不登校生徒の欠席理由はそれぞれであるが、担任や学年主任、教育相談課などを中心に、生徒対応の充実を図るとともに保護者との連携を密にしながら早急な対応が必要である。また、面接週間を設定し平素の面談を充実させたい。防災教育については引き続き、防災委員やボランティア部員を通じた啓発活動により生徒の意識向上を図りたい。 |
| | 人権意識の高揚 | 「学校いじめ防止基本方針」に則ったいじめ、人権侵害をなくす取組を10回以上実践するとともに、校外活動に参加する生徒を増やす。 | C | 人権・同和教育ホームルーム活動の実施(4回)、人権だより『ひだまり』の発行(5回)、『宇東人権メッセージ』の発行等によって、生徒の人権意識の高揚に努めた。また、識字学級への参加(3回)、たんぼぼスマイルとの交流会、宇和島地区交流学習会など校外活動へも多くの生徒が参加した。 | 人権・同和教育ホームルーム活動のさらなる充実を図り、そのうち1回を公開授業としたい。教職員研修や研修報告会、人権委員会以外にも生徒の郊外活動への積極的な取組を促したり、保護者への啓発活動の工夫を図りたい。 |
| | 読書の勧め | 学年団の協力のもと、「朝の読書」やクラス単位での読書会を実施することで、読書指導の充実を図る。「宇中文庫」(集団読書用の新書)を各クラス年間2回以上活用することで、より良い読書習慣の確立を目指す。年間読書冊数一人10冊以上を達成する。 | C | 図書に関するアンケートから、「朝の読書」については92%の生徒が充実していると回答している。これは、各学年の教員が意識を統一して取り組んだことによる成果と考えられる。12月現在の一人当たりの年間読書冊数は6.7冊である。また、宇中文庫はホームルームでの読書に活用した結果、1年生の全クラスで2回以上、2年生は全クラス1回以上の貸出があった。 | 「朝の読書」の取組について、昨年度と比較すると数値結果のみならず、雰囲気的にも読書環境が改善され、全体的に良い傾向が見られた。しかし、学校評価アンケートの図書館利用の数値は前年と比べて、0.2減少しており、憂慮しなければならない。授業やホームルーム活動での利用を更に促していきたい。 |
| | ボランティア活動や地域イベントへの参加 | 一人年間1回以上のボランティア活動や地域イベントに積極的に参加することを通じて、広く社会に貢献し、地域を愛する人材を育成する。 | C | ボランティア活動や地域のイベントに部活動や個人で参加することができている。 | 生徒のなかには、ボランティア活動や地域イベントに参加したいが、部活動や学校行事と重なり、なかなか参加できない状況もある。このことに関して何らかの対応をしていきたい。 |
| 魅力ある特別活動 | 生徒主体の学校行事 | 生徒の主体性を軸に、学校行事における協働的な取組を通してコミュニケーション力を高め、愛校心や豊かな心を育成するとともに生徒の学校行事満足度100%を達成する。 | A | 文化祭、ポートルース大会、野球応援(甲子園)、体育祭において、生徒たちの愛校心の高揚を感じることができた。 | 行事日程の調整が厳しくなっているため、生徒負担の軽減を図りながら、生徒会を中心に充実した学校行事の実施を計画したい。 |
| | 部活動の活性化 | 質の高い文武両道を目指すなかで、生徒、教職員、保護者などが連携を深め、より良い部活動運営を行い心・技・体の調和が取れた生徒を育成する。また、昨年の成果を踏まえ、さらなる高みを目指して、15部以上の四国大会及び12部以上の全国大会出場を達成する。 | A | 野球部の甲子園出場を始め、四国大会に17部、全国大会に13部が出場しており、目標が達成されている。 | さらに生徒、保護者の連携を図り、安全に、計画的に部活動を運営できる環境を整えていきたい。教員の働き方改革などもあり、部活動全般について見直しをしていきたい。 |

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。